

Brush Up Letter

D&Nplusブラッシュアップセンターは、妊娠期から職場復帰、子育て期・介護期の医療職者をサポートします。

2022年8月

Vol. 40



Contents

1. 開催報告 キャリアカフェ「パパドクターフォーラム」
2. 今後のイベント予定

キャリアカフェ「パパドクターフォーラム」

2022年7月27日（水）12：00～13：00（Zoom）

令和4年度キャリアカフェ「パパドクターフォーラム」を開催いたしました。今回は、子育て中の3名の先生方にお集まりいただき、研修医の先生の司会のもと、『パパドクターの子育て疑問集』と題して、質問にお答えいただく形でお話しいただきました。



仕事と家庭のバランスの取り方は？

子どもはもう高校生ですが、まだ小さいときは夫婦がお互いに「できる方ができることをする」という役割分担で乗り越えてきました。妻が専業主婦で家に居てくれたので、平日の家事と育児は妻に一任し、私は仕事に集中することができました。その代わり週末は、子どもが大きくなった今でも、私が料理をずっと担当しています。家事育児に関しては、妻が週5、私は週2で圧倒的に妻の働きが大きいので、妻が疲れているときは、一人でゆっくりできる時間を作ってあげるように心がけています。



放射線診断・IVR科 特命准教授 河野 淳 先生

コロナ禍で保育園が休園になった場合、どう対応するか？

保育園の休園のほか、子どもの急な発熱などで休まなければならないときがありますが、妻は内科医で外来主体の非常勤勤務をしているので、妻がどうしても抜けられない午前中の間、私が家で子どもの面倒をみて、午後は妻にバトンタッチで私は仕事に行くという形で調整しています。夫婦ともフルタイムでは難しいかもしれませんが、我が家ではこういった分担をして、なんとかやっています。自宅待機の期間が長くなる場合、家でもできるペーパーワークをしようとしたのですが、物珍しさで子どもがPCを触ってきたりして、思うように進まず、在宅勤務の難しさを痛感しました。



病理学分野 准教授 猪 雄一朗 先生

男性育休もあるけれど…男性は子育てにどこまで協力できるか？

男性育休の制度はこれから必要になってくると思いますが、実際の子育ては育休の期間内でスパッと完結するものではないので、長期的に見ていく必要があります。共働きの場合、朝は大変でも日中は保育園に預けられるのですが、問題は夕方から寝かしつけまでの時間です。その時間帯は一日で一番忙しいので、男性もその時間はなるべく家に居ることが必要で、積極的に家事育児に関わることで、夫婦が同じ立場で気持ちを共有できるようになると思います。また、その時間は家族の会話も弾むので、充実した時間になっています。



糖尿病・内分泌内科 助教 山本 雅昭 先生

私はまだ独身で、育児については周りの人から聞いた話でしか知りませんでしたが、今回こうして男性医師の先生方に、より具体的なお話を聞くことができました。先生方の家族サービスへの意識など、大変興味深く聞かせていただき、ご家族への愛は皆さん共通しているなと痛感しました。



【司会】
総合臨床教育センター
研修医 佐保 航 先生

ご参加いただきました先生方、ご視聴いただきました皆さま、
ありがとうございました。





どんな習い事をしている？

本人のやりたい気持ちを尊重し、色々な習い事をさせてみて、年齢とともに取捨選択していているようです。先生方の全員が、習い事の送迎を担当をされていました。小さいうちは送迎が必要になり大変ですが、水泳など習い事によっては送迎バスが利用できる場合もあります。中高生の塾は終わる時間が遅いため、軽食やお弁当の用意が必要になることがあり、お迎えよりも送るときに負担がとて大きくなるそうです。

- ・ 狛先生の5歳長女は、新体操・水泳・ピアノ・公文とたくさんの習い事を頑張っています。
- ・ 山本先生の10歳長男は、水泳・サッカー教室に通い、最近はオンラインでZoomを使って、プログラミングやピアノ・チェスを習っています。
- ・ 河野先生のお子様は、今は高校生で塾に絞っていますが、以前はピアノと習字をしていました。



休日の子どもの過ごし方は？

先生方の全員が、外遊びに連れ出すとの意見がありました。最近はコロナの影響で外出を控えることが多いので、週末くらいは外で思いっきり楽しんでほしいという思いがあるかもしれません。

- ・ 狛先生は、お子様が体を動かすことが大好きで、普段から外に出て遊ぶことが多いそうですが、休日も外でお友達と一緒に遊んだり、植物を見たり、自然に触れ合うことを大切にしています。
- ・ 山本先生は、週末は出来るだけ長い時間を家族で過ごすようにしていて、水族館や動物園などに車で出かけます。家でのおんびり過ごすことは少ないです。
- ・ 河野先生のお子様はいまは高校生なので、友達と遊びに行くことが多くなりました。まだ小さいときは、奥様が家で休んでいる間、子どもを連れて車で遠出をすることもありました。



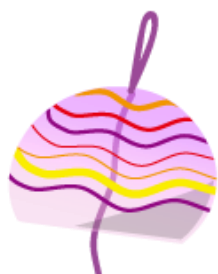
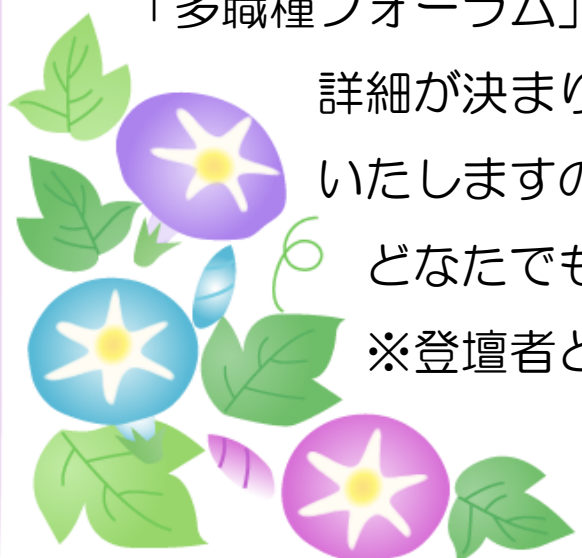
男性の育休制度について、どう思いますか？



- ・ 今年ついに放射線科でも、男性が育休を取ることになりました。期間は1年未満ですが、以前から私の悲願だったのでまずは第一歩だと思っています。放射線科では、ここ数年で保育園の送り迎えのために時短の働き方をする男性も出てきて、働き方の多様性を感じています。余剰人員がない中で 他の人へのしわ寄せという問題もありますが、みんなの協力があって達成することができました。（河野先生）
- ・ 私たちの業界で、そういう制度を利用するのは一番難しいと思っていたので、放射線科での取り組みに感動しました。現場を見ている者としては、ギリギリの人数で回しているのに、男女関係なく1人でも抜けると厳しいというのが正直なところですが、でも、育休は確かに必要なものですし、魅力的ではありますが、育児はずっと継続してやっていかないといけないので、長期的なスパンで考えて子育てしやすい働き方を体現する必要があると思います。（山本先生）
- ・ 私自身でいうと、育休を取れるなら取りたいという思いがありますが、大学院生はたくさんいますが、教員は4名しかいないので現実には難しいように思います。神大では病理診断科は人数が多く、実際に男性でも育休を取られている方がいるようです。病理の世界でいうと、人数がいれば可能かもしれませんが、一般病院だと一人病理医のところもありまだまだ身近なことではないのかもしれませんが。（狛先生）

今後のイベント予定

色々な職種の方が対談でお話いただく、「多職種フォーラム」を秋頃開催の予定です。詳細が決まり次第、ポスターを配布いたしますので、是非ご参加ください！どなたでもご参加していただけます。※登壇者としてお話いただける方も募集しております。



ご質問やご相談は、
お気軽にご連絡ください



【発行】

神戸大学医学部附属病院
D&Nplusブラッシュアップセンター



〒650-0032
神戸市兵庫区荒田町2丁目1-5 地域医療活性化センター1階
TEL 078-382-5266 (内線5266) / FAX 078-382-5837
MAIL brushup@med.kobe-u.ac.jp
HP <https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/dn/>